

Q27

集団生活への適応が難しい生徒の 進路選択への支援は？

まずは
ここから



- 高校見学, 働く体験等を通して, 自己の特性を見極めます。
- 本人が納得して自己選択・自己決定することが基本です。

中学校3年生になって、「学校へ行きたくない。勉強をしたくない」と言い出したテツロウさん。自ら就職と定時制高校進学を決定するまでの支援を紹介します。

進路選択を意識した体験的学習の導入

学習に対して意欲がわかないことから, 体験的な学習を中心に学校生活を構成するとともに, 進路を意識した経験を積むことにしました。

- 1 学期：自律学級での木工品製作等の作業的な学習
- 夏休み：事業所での第1回現場実習
- 2 学期：継続的に位置付けた第2回現場実習
- 11 月：定時制高校の見学と高校の教頭との懇談



体験の中で, 自分
に対しての自信が
醸成されていく。

見事な木工品を完成させ, 自律学級担当者や学級担任を驚かせたこと, よく働くことを実習先の事業主に認められたこと等から, セルフエスティームが高まってきました。このころから, 家庭学習ができるようになってきました。

定時制高校の見学の中で, 自分にもできそうだと自信がもてると, 進学への意欲がわき, 2学期末からは, 原学級での学習に向かうようになりました。

外部機関との連携

- 実習先との連携：保護者が候補に挙げた事業所との打ち合わせ, 情報交換, 評価
- 職業安定所・障害者職業センターとの連携（職業ガイダンス・職業適性検査・職業相談）
職業センターからは, 「まだ働く段階に至っていない。進学よりも就職の方が大変であるから, 3年間の猶予を置くべき」という評価をいただきました。
- 定時制高校との連携：高校見学, 高等学校の教頭との懇談会の実施
学校生活の様子, 学力, 進路指導の経過等を伝え, 学習する意欲があれば受入れは可能であるとの返事をいただきました。

高校1年生になった現在, 昼間は市場で働き, 夜間は頑張っ定時制高校に通っています。



【キーポイント】 子どもにとっても, 進路選択は重要な問題です。自分の適性について, 多面的に知る機会を保障していくことが, できそうなことの発見や自信につながり, 学ぶ意欲につながります。

テツロウさん(中3)の指導経過の詳細

保護者との懇談

(丸数字は懇談順)

- ① 原学級でなくてもいいので、学習を進めてほしい。充実した学校生活を送ってほしい。(母)
 - テツロウさんのよさ、思い、特性を伝える。(担任)
- ② 宿題を出してくれ。高校へ進学させたい。(父)
 - 宿題を出す。就職も念頭に現場実習も考えてみたい。(担任)
- ③ 父親は進学を強く望むが、就職でよい。(母)
 - 家でも就職先の開拓を。(担任)
- ④ 中卒では仕事がない。(父)
 - 働く体験をし、本人も保護者も職場を知ること。進学か就職か、現場実習後に相談を。(担任)
- ⑤ 夏休み中に職場や職業について調べてみよう。(担任)
 - 家庭で、職場について一緒に調べてみます。(母)
- ⑥ 就職先も探しながら、高校進学もできるように学習にも力を入れよう。(母・本人・担任)
 - 定時制高校の見学を。働く力をさらにつけるように、再度現場実習をしよう。(担任)

テツロウさんの様子

…… 中3になって ……
「学校へ行きたくない、勉強をしたくない。」

作業的な学習を展開
見事な木工品を製作し、先生たちから褒められる。

- 親に色々言われ、意見の食い違いから不安な様子。
- 本人とも相談してできそうな宿題を出す、気持ちが向かない。



夏休みに現場実習を実施
たいへんよく働く実習先から評価をもらう。

「初めは戸惑ったけれど、褒められるとやる気になった。」



- 納得いかない様子ながら、考え込む様子も…。
- 宿題をやってくるようになる。
- 原学級の一部の教科学習に参加するようになる。

再度、現場実習(11月1週間)
よく働くが雇用はできない…。

外部機関との連携

※ 時間経過に沿って



- 保護者が候補に挙げた職場と現場実習の打合せ。「まずは働く経験をさせていただきたい」(担任)
- (左記評価をもらう)「期間を延長して、さらに経験を積んではどうか」(職場)

…職業安定所・職業センター…

職業ガイダンス

職業適性検査を実施

職業相談を実施

- 障害者職業センターの方から「まだ働く段階に至っていない。学校へ行くよりも働く方が大変。3年ぐらい猶予期間をおいたらどうか」と評価をもらう。

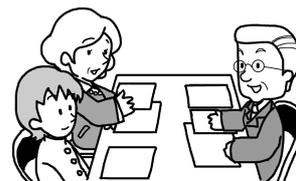
定時制高校の見学（11月）

…担任も付き添い…

「教頭先生のお話でちょっと安心した。自分にもできることがあると感じた」

- 学校の様子が分かり、進学したいという気持ちが出てくる。
- 原学級で学習に励むようになる。

① 高校の教頭と懇談
学校生活の様子、学力、進路指導の経過等を伝える。学習する意欲がある生徒ならよい、と返事をもらう。



⑦ 進路確認

- 高校の様子が分かって勉強をがんばるようになった。(母・本人・担任)
- 高校の教頭先生から話してもらい、やる気が出たようだ。(母)
- 定時制高校を受検することに決めます。(本人・母)



定時制高校を受検

定時制高校に合格

⑧ 昼間の働き口を探す。(父・母)

自宅近くの市場が受け入れてくれることになる



卒業～進学・就職

1 就職先と懇談
勤務条件や仕事内容を聞く。

② 高校の教頭と懇談
家庭状況等について伝える。

③ 高校の教頭と懇談
よく頑張っている、と聞く。

⑨ その後の様子

- 3か月、何とかやっている。感心する。でも、つまづいた時は相談に乗ってほしい。(父・母)
- 大いに自信をもってほしい。いくらでも相談に乗るが、職場の方や高校の先生にいろいろ話せるとよい。(担任)

「働くことは疲れるけれど、お金をもらえてうれしいこともある。職場の人に褒めてもらうこともあってうれしい。高校では友だちができて楽しい。勉強は難しいけれど、お父さんも励ましてくれる。これからも頑張りたい」

2 就職先と懇談
熱心に働いている、と聞く。

障害者職業センターとは：身体的、知的、精神的な障害のある方々に、職業についての相談、職業能力の評価や就労後のフォローアップを行っています。事業主の方々には、障害のある人たちの受入れや雇用管理についてのアドバイス等の支援をハローワーク（公共職業安定所）や関係機関と協力して行っています。